

多様な森林空間利用の期待の高まり ～森林空間を活用した新産業創出に向けて～

近年、森林環境教育の場、アウトドアスポーツなどのレクリエーションの場、森林浴などの保健・休養の場として利用されているほか、近年では新たなニーズとしてライフスタイルにも**森林空間利用への期待が高まっている**。

学び

青少年等が森林・林業について体験・学習する場や、木の良さやその利用の意義を学ぶ活動である「木育」の場として利用。

【事例】

- 学校の森・子どもサミット
- セカンドスクール
- 森のようちえん
- 林間学校 等



遊び・スポーツ

景観や環境に優れた森林をフィールドとして、例えば、自然探勝、トレッキング、アウトドアスポーツの場として利用。

【事例】

- フォレスト・アドベンチャー
- ロングトレイル
- マウンテンバイク 等



健康・癒やし

森林の中でのリラクゼーション・プログラム等を通じて、森を楽しみながら、心と身体のリフレッシュや健康維持・増進、病気の予防を図ることを目的としたプログラムの場として利用。

【事例】

- 森林浴
- 森林セラピー
- クアオルトウォーキング 等



新たなニーズ

国民の価値観が多様化する中で、都市住民を中心に「ゆとり」や「やすらぎ」を求める傾向が強まっており、健康志向、環境意識の高まりと相まって、Uターン・Iターン、定住希望者が増加するなど、新しいライフスタイルを実現する場として利用。

【事例】

- サテライトオフィス
- テレワーク 等

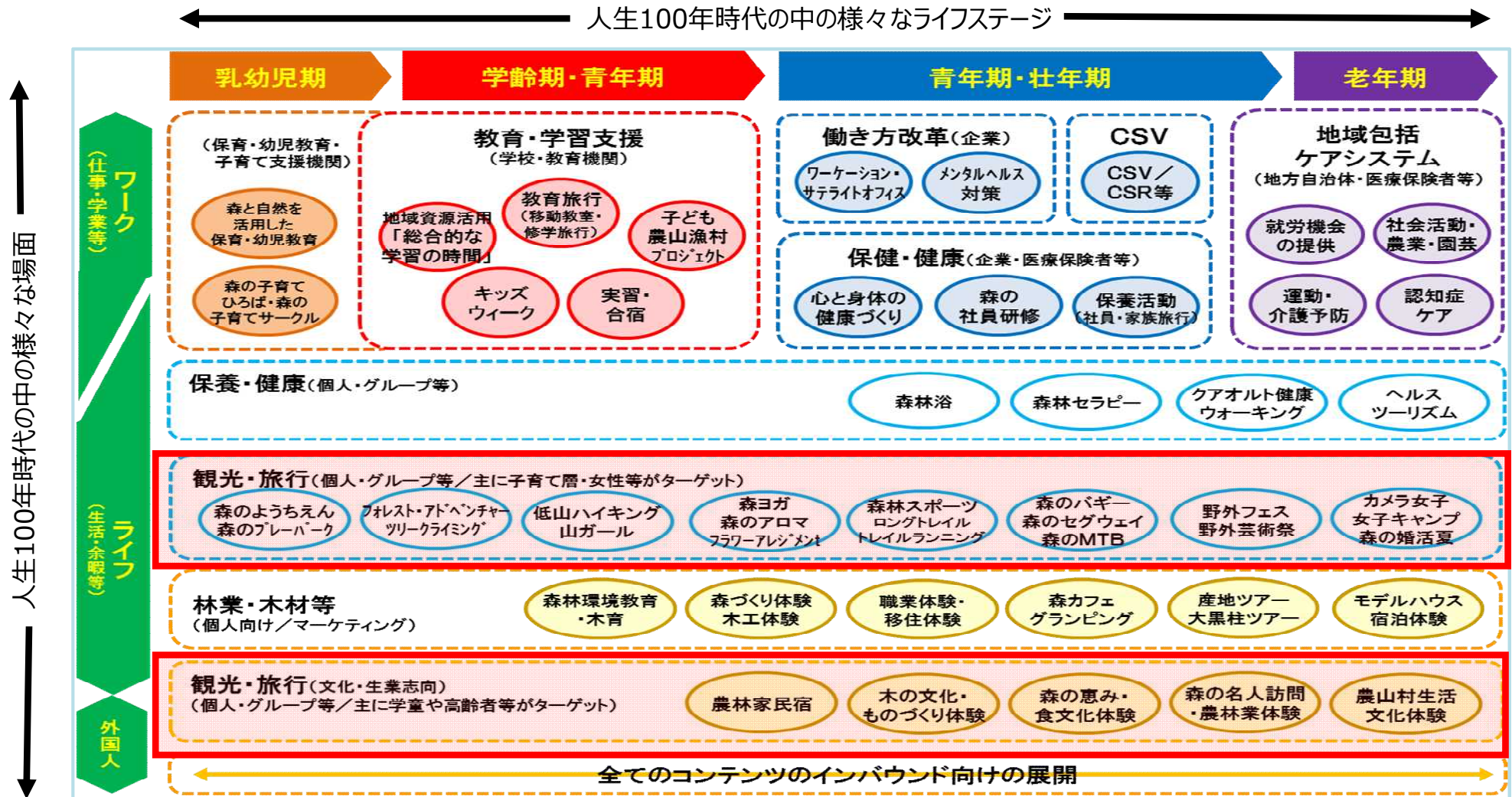


森林資源の一つである森林空間を活用した新産業(森林サービス産業)の創出・推進により、山村振興・地方創生への寄与に期待

「森林サービス産業」の創出・推進を通じた新たな森林との関わり

- 「森林サービス産業」とは、人生100年時代の中の様々なライフステージや場面において、森林空間からの多様なサービス（恵み／恩恵）の提供を通じて、社会からの様々なニーズに応えていくことで森林の新たな価値を創造するもの。
- 「森林サービス産業」には、これまで森林とは関係が希薄であった分野をはじめ多様な関係者の連携した取組により、さらに奥深いサービスの創造へと繋がる潜在性を有する。

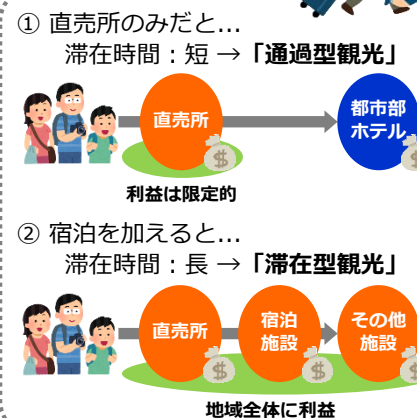
※以下の様々なステージにおいて森林との関わりを持つことが期待。



■ 「農泊」 推進の考え方

- 「農泊」とは、
【利用者】 農山漁村地域に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」。
【提供者】 地域の中で「宿泊」、「食事」、「体験」を提供できる形を備えていることが必要。
- 宿泊を提供することで、旅行者の地域内での滞在時間を延ばしつつ、滞在中に食事や体験など地域資源を活用した様々な観光コンテンツを提供して消費を促すことにより、地域が得られる利益を最大化。
- そのためには、地域の関係者が一丸となって、農泊をビジネスとして取り組むことが重要。

農泊（農山漁村滞在型旅行）



農泊推進体制

法人化された中核法人を中心として、多様な関係者がプレイヤーとして地域協議会に参画し、地域が一丸となって取り組む。



※ 中核法人の主たる事業は、農林漁業関連、観光協会等の非営利事業、体験・ガイド、宿泊事業等

<対策のポイント>

「農泊」を持続的なビジネスとして実施できる地域を創出し、都市と農山漁村との交流や増大するインバウンド需要の呼び込みを促進することで農山漁村の所得向上と地域の活性化を図るため、ソフト・ハード対策を一体的に支援するとともに、効果的な国内外へのプロモーション等を実施します。

<政策目標>

「農泊」をビジネスとして実施できる体制を持った地域の創出（500地域〔令和2年まで〕）

<事業の内容>

1. 農泊推進事業

- 都市と農山漁村との交流や増大するインバウンド需要の呼び込みを促進するため、**農泊ビジネスの体制構築**や地域資源を活用した魅力ある**観光コンテンツの磨き上げ**、及び**専門人材の確保等を支援**
- 増大するインバウンド需要に対応するための、**ストレスフリーで快適に滞在できる環境の整備等への支援を拡充**（2年間の事業が完了した地域に対し、1地域200万円を上限に追加支援）

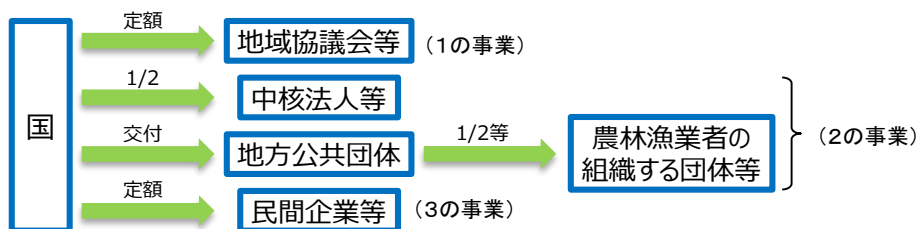
2. 施設整備事業

- **古民家等を活用した滞在施設**や**農林漁業・農山漁村体験施設**、**活性化計画に基づき農泊に取り組む地域への集客力を高めるための農産物販売施設**など、農泊を推進するために必要となる**施設の整備を支援**
- 増大するインバウンド需要を含む国内外の旅行者を確実に受け入れられる**収容能力の確保のため**、**地域内に存在する廃校等の遊休施設を有効活用する大規模な施設整備への支援を拡充**（1地域1億円を上限に支援）

3. 広域ネットワーク推進事業

全国で農泊に取り組む地域が効率的かつ効果的に事業を推進できる環境を整備するため、**デジタルマーケティング手法等**を活用した国内外への**プロモーション**、**他分野との連携等**の取組を支援

<事業の流れ>



<事業イメージ>

【1の事業】

- **事業実施主体** 地域協議会、農業協同組合、NPO法人等
- **事業期間** 2年間等 ○ **交付率** 定額



地域資源を活用した体験メニューの開発



地域の食材を活用したメニュー作り



【2の事業】

- **事業実施主体** 市町村、地域協議会の中核となる法人等
 - **事業期間** 2年間 ○ **交付率** 1/2（上限2,500万円等）
- （活性化計画に基づく事業）**

- **事業実施主体** 都道府県、市町村、農林漁業者の組織する団体等
- **事業期間** 原則3年間 ○ **交付率** 1/2等



古民家を活用した滞在施設



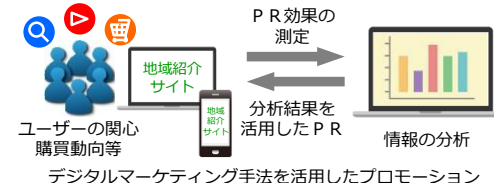
農産物販売施設



廃校を改修した大規模滞在施設

【3の事業】

- **事業実施主体** 民間企業、都道府県 等
- **事業期間** 1年間
- **交付率** 定額



森林を観光資源として活用する農泊の取組

○平成29年度と平成30年度の農泊推進事業において352地域を支援し、このうち20地域は森林活用をメインとする取組。

加子母森林組合(岐阜県中津川市)

地域資源等の現状

- ・「東濃ひのき」と呼ばれる優良材の産地。
- ・当該地域では、散発的に「林業体験」、「農作物の収穫体験」、「歌舞伎小屋を活かした観光」等のツアーが実施されてきた。

農泊推進対策による支援

「加子母森林組合」が中心となり、市役所、観光協会、旅行会社、農林業関係団体の協力を得て、体験プログラムの商品化や宿泊施設の整備等を行い、プロモーションの強化によってインバウンドを含む観光客の増加を目指す。

体験プログラム等の開発と磨き上げ



マイ箸づくり 林業体験 農業収穫体験



食文化体験 芝居小屋

宿泊施設の整備(既存施設の改修等)



キャンプ場、コテージの通年利用 古民家改修

プロモーション

ターゲット

外国人旅行者
(主に中国人)

大都市圏(関東、中部、関西)の旅行者

<ソフト事業>

- ・地域内で合意形成を目的にフォーラム開催
- ・外国人旅行者のニーズ把握調査
- ・農泊ビジネス成功事例調査
- ・マーケティングに基づく体験プログラムの開発
- ・加子母地域の魅力を発信(プロモーション)など

(一社)上松町観光協会(長野県上松町)

地域資源等の現状

- ・「赤沢自然休養林」を活用した森林浴観光、健康増進事業を展開。特に国内でも貴重な木曽ひのき天然林を有する。
- ・平成18年、「森林セラピー基地」に認定。
- ・平成28年、中山道木曾路が「日本遺産」の認定を受け、新たな観光の要素となっている。
- ・平成29年、「日本美しい森 お薦め国有林」に認定。

農泊推進対策による支援

家族で楽しめる森林内のアドベンチャークエストや、企業の福利厚生を目的とした森林セラピー®等のプログラムにより、幅広い客層をターゲットとする「農泊」地域を創出

<地域の「宝」の磨き上げ>

■取組内容(予定)

- ・旅行会社の企画担当者向けのファムトリップを実施。
- ・インバウンド対策として、旅行会社の外国人スタッフの協力を得て、情報発信や接客等の改善を目指す。
- ・大手旅行会社と連携し、森林セラピー®を取り入れた「健康増進モニターツアー」の実施。
- ・森林内の散策コース全体に「アドベンチャークエスト」を仕掛け、親子をターゲットとする企画を実施。



赤沢森林鉄道



メディカルチェックの様子



森林散策道(ふれあいの道)

にっぽん うつく
「日本美しい森 お薦め国有林」について

国有林の「レクリエーションの森」のうち、特に優れた景観を有するなど観光資源としての潜在力のある93箇所を「日本美しい森 お薦め国有林」として選定しました。ここでは、インバウンド観光促進に資するため、動画整備やwebの整備等を通じた外国人旅行者を含む観光客等へ向けた情報発信の強化や重点的な環境整備を実施し、様々な森林レクリエーションや健康づくりの場としての活用を通じて、農山村地域の活性化に貢献することとしています。

レクリエーションの森における課題

- ① 外国人観光客を含む旅行者へのPRが不足
- ② 日本ならではの木の文化の魅力を発信する場の不足
- ③ 観光客に長時間・数日間滞在してもらうためのプログラムがない
- ④ 観光客が快適に森林を楽しむための環境整備が不足



魅力向上のため
 重点的な「磨き上げ」が必要
【モデル箇所を選定し、重点的に整備】

※ レクリエーションの森

優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した国有林を「レクリエーションの森」として設定し、国民に保健休養の場として提供



金華山自然観察教育林



くまもと自然休養林

「レクリエーションの森」の観光資源としての活用を進めるため、
 多言語による情報発信・環境整備に加え、既存施設等のレベルアップを図る

情報発信



リーフレット
 (日・英)



ホームページ
 (日・英)



ドローン撮影

その他



わたしの美しい森
 フォトコンテスト
 (林野庁長官賞)

環境整備



多言語看板
 (日・英・韓・中)



多言語情報発信
 (日・英・韓・中)



眺望が確保

眺望確保のための伐採



階段の設置

※このほか、地域の関係者が連携して実施する森林体験プログラムの作成やガイドの育成及び森林体験の実施に必要な施設の整備等について、農山漁村振興交付金により支援します。

※別途、森林の造成に伴う施設撤去等を森林整備事業で実施します。

新たな森林との関わりで注目すべき分野 ～ワーケーションの広がり～

令和元年(2019年)6月4日

ワーケーション全国フォーラムを開催し、
知事が「ワーケーション・スタートアップ宣言」の署名を行います



長野県は、(一社)日本テレワーク協会及び和歌山県と共同で、ワーケーション(※)が日本のワークスタイルの変革及び地方創生の推進に資するものであるとして、同協会等と協力し、「ワーケーション全国フォーラム」を全国で初めて開催します。

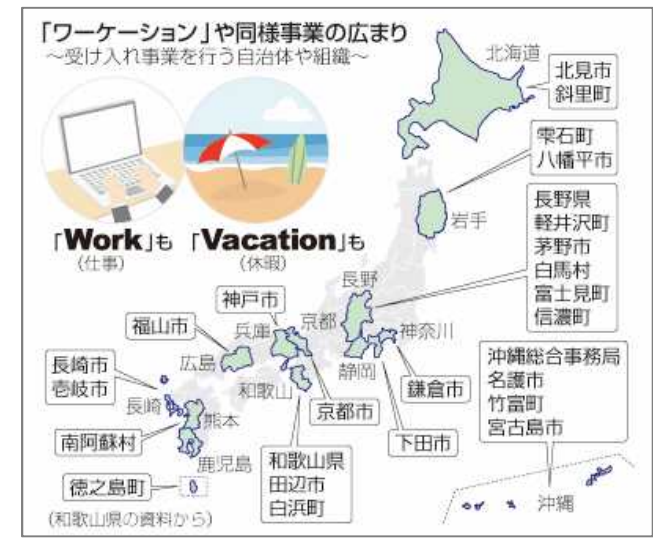
(※) ワーケーションとは、テレワークを活用し、普段の職場から離れ、リゾート地等の地域で、普段の仕事を継続しつつ、その地域ならではの活動を行うことです。

日時 令和元年7月18日(木)14:00～16:40
場所 大手町プレイス(東京都千代田区大手町2-3)
主催 一般社団法人 日本テレワーク協会
特別協力自治体 長野県、和歌山県



(ワーケーション・スタートアップ宣言とは)
長野県及び和歌山県が先頭に立ち、ワーケーションの活動を更に展開していくための全国的な自治体間連合「ワーケーション自治体協議会」(通称:ワーケーション・アライアンス・ジャパン(WAJ))の設立に向けた協力確認宣言です。

※長野県(産業労働部)プレスリリースより



時事通信:元年6月3日付け記事より

長野県信濃町での取組事例

自然体験活動などを取り入れたプログラム等により、「働き方改革」などの企業の経営課題解決を支援する貸切型のリモートワーク施設(施設名:ノマドワークセンター)が2019年5月にオープン。



【一週間のプログラム例】

月	火	水	木	金	土	日
来訪 セッティング	仕事	仕事	仕事	仕事	家族と アクティビティ	家族と アクティビティ
ランチは信濃町の業者によるケータリング						家族と アクティビティ
仕事	アクティビティ プラン	仕事	アクティビティ プラン	仕事	家族と合流	
仕事		仕事		家族と合流		帰宅
宿泊は農家民宿へ				宿泊施設を案内		